

世界報道写真展 2017

2017 年 6 月 10 日（土）～8 月 6 日（日）
東京都写真美術館 地下 1 階展示室（恵比寿）



自然の部 単写真 1 位

フランシス・ペレス（スペイン）

2016 年 6 月 8 日（スペイン領カナリア諸島）

スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島沿岸で、漁網に絡まり泳げずにいるウミガメ。
アカウミガメは、国際自然保護連合（IUCN）により絶滅危惧 II 類とされている。
放置された漁具がウミガメの死を頻発させている。

- 主催 世界報道写真財団 / 朝日新聞社
- 共催 東京都写真美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）
- 後援 オランダ王国大使館 / 公益社団法人 日本写真協会 / 公益社団法人 日本写真家協会 / 全日本写真連盟
- 協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

掲載に関するお問い合わせ

「世界報道写真展 2017」東京展広報事務局 田中、三井

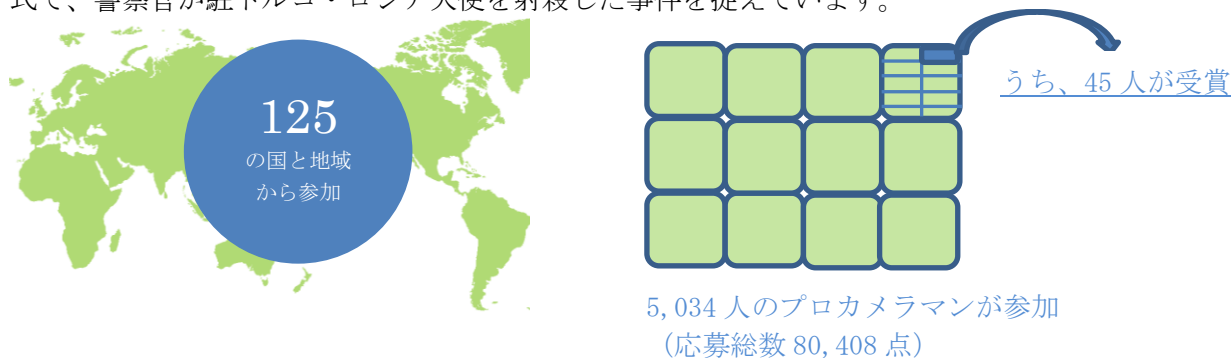
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル（共同 PR 内）

TEL: 03-3575-9823 / FAX: 03-3574-0316 / E-mail: wp-ph-pr@kyodo-pr.co.jp

■ ■ 世界的に権威のある写真コンテストの入賞作を展示

「世界報道写真展」は 1955 年にオランダのアムステルダムで、世界報道写真財団が発足したことにより、翌年から始まったドキュメンタリー、報道写真の展覧会です。毎年、1 月～2 月にかけて主に前年に撮影された写真を対象にした「世界報道写真コンテスト」が開かれ、十数人からなる国際審査員団によって選ばれた入賞作品が「世界報道写真展」作品として、世界中で展示されます。

第 60 回世界報道写真コンテストは 125 の国と地域から 5,034 人のプロカメラマンが参加し、応募総数は 80,408 点。その中から選ばれた 8 部門 45 人の受賞作品が 2017 年 2 月 13 日に発表され、今年の大賞は、トルコのブルハン・オズビリジ氏が選ばれ、首都アンカラで開かれた写真展の開会式で、警察官が駐トルコ・ロシア大使を射殺した事件を捉えています。



■ ■ 日本人カメラマンのコンテスト参加状況

「世界報道写真コンテスト 2017」では、日本人の応募が約 60 件あり、残念ながら入賞作品には選ばれませんでした。新聞社・通信社・雑誌社などに属するカメラマンや、プロのフォトグラファーが精力的に応募しています。2012 年のコンテストでは、AFP 通信の千葉康由氏、毎日新聞の手塚耕一郎氏、朝日新聞の恒成利幸氏（いずれも当時の所属）が、東日本大震災を捉えた写真でトリプル入賞しています。2016 年には「人々」の部の組写真において、小原一真氏が 1 位に選ばれました。

■ ■ 世界で総計 400 万人を動員

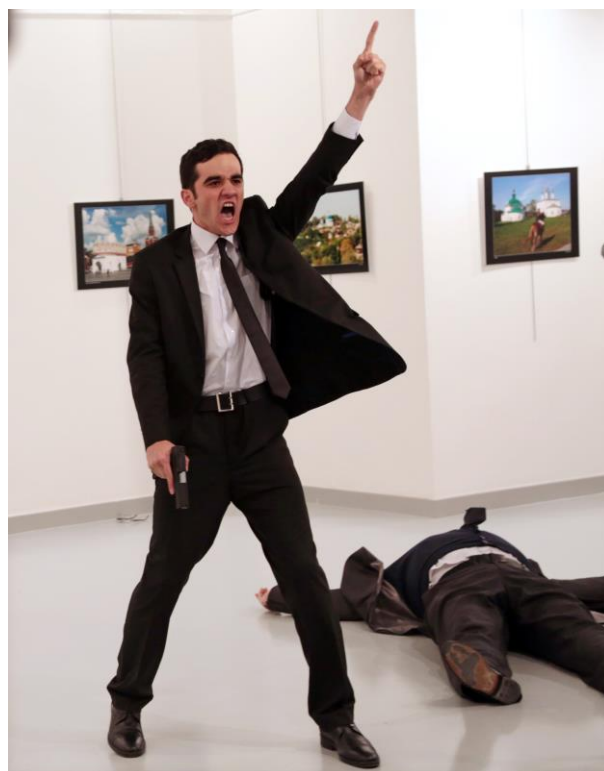
「世界報道写真展」は 1 年を通じて、世界の 45 カ国約 90 会場（2016 年実績）で開かれ、総計 400 万人が会場に足を運ぶ世界最大規模の写真展です。

同じ時代を生きる人たちの、普段目にすることが少ない現実を鋭い視線で捉えるプロの報道カメラマン達。その圧倒的な力量で表現される受賞作品の数々は、時に美しく時に厳しく、見る者の心に迫ります。



■今年の入賞作品—今年の大賞は組写真での受賞

今年は 45 人がコンテストでの入賞を果たしました。コンテストの部門は「スポットニュースの部」、「現代社会の問題の部」、「日常生活の部」、「一般ニュースの部」、「長期取材の部」、「自然の部」、「人々の部」、「スポーツの部」と 8 つ。さらにそれぞれが「単写真（写真 1 枚）」と「組写真（複数の写真で構成）」に分かれています。入賞者は部門毎に各 1 位から 3 位までのいずれかに該当します。入賞者の中から、その年の最も優れたフォトグラファーに対して「世界報道写真大賞」が贈られます。今年の大賞には AP 通信所属のブルハン・オズビリジ氏が選ばれ、トルコの首都アンカラで開かれた写真展で 22 歳の非番警官メブリュト・メルト・アルトゥンタシュがアンドレイ・カルロフ駐トルコ・ロシア大使を射殺し、叫び声をあげている緊迫した瞬間を捉えています。



世界報道写真大賞 スポットニュースの部 組写真 1 位
ブルハン・オズビリジ (トルコ、AP 通信)
2016 年 12 月 19 日 (アンカラ・トルコ)



人々の部 単写真 1 位
マグナス・ウェンマン
(スウェーデン、アフトンブラデット紙)
2016 年 9 月 18 日 (デバガ・イラク)



日常生活の部 組写真 1 位
トマス・ムニタ
(チリ、ニューヨークタイムズに提供)
2016 年 12 月 1 日 (サンタクララ・キューバ)

WORLD PRESS PHOTO

世界報道写真財団公式サイト (英文)

<http://www.worldpressphoto.org/>

■ ■ 全 8 部門の受賞作品

「世界報道写真コンテスト」は、国際審査員団によって入賞作品が選ばれます。十数人から成る審査員団は毎年メンバーを替えて、審査の中立性を保つ努力がなされています。全ての応募作品は匿名で審査され、票を持たない事務局員が審査過程の公平性を監督します。

※①～⑨は広報作品番号です。

※作品説明に関しては、撮影された写真を説明するためにカメラマン本人が付けたものを日本語に翻訳しております。説明が長いものに関しては、内容が改変されない範囲で適宜縮めていただきご掲載をお願いいたします。

スポットニュースの部

〈組写真 1 位〉/世界報道写真大賞

① ブルハン・オズベリジ (トルコ、AP 通信)

2016 年 12 月 19 日 (アンカラ、トルコ)

2016年12月19日、トルコの首都・アンカラにある文化センターにおける写真展の開会式、22歳の非番警官メブリュト・メルト・アルトゥンタシュがアンドレイ・カルロフ駐トルコ・ロシア大使を射殺した。犯人は、警察との銃撃戦で射殺されたが、大使の他にも3人を負傷させていた。

【審査員のコメント】

審査委員長 ステュアート・フランクリン：

「結局のところ重要なのは、報道し、静寂を破り、写真を通じて私たちの目を開かせるために、フォトグラファーはしばしば命を危険にさらしながら、途方もない労力を払っているということだ。そして、フォトグラファーがそうするのは、それが変化のきっかけになる可能性はゼロではないと信じているからだ。」

【作者のコメント】

ブルハン・オズベリジ：

「今度こそ撃たれるだろうと恐怖を感じた私は、動きが鈍くなりました。私は極めて冷静で、逃げ出すことは解決にはならず、安全ではないと思いました。こう思ったのを覚えています。『殺されるか、けがをするかもしれない。だが、ロシア大使が撃たれた。これは重大なニュースだ。ジャーナリストとして、この場にとどまり仕事をするのが私の務めだ』と。私が殺されたとしても、写真は残るのです。」



スポットニュースの部



〈単写真 2 位〉

⑨ アブド・ドゥマニー（シリア、AFP 通信）

2016 年 9 月 12 日（ダマスカス東郊ドゥマ、シリア）

2016 年 9 月 12 日、仮設病院で、負傷した子どもが寝かされる横で、シリア人の少女が叫び声をあげている。この少女自身も、シリアのダマスカス東郊の反体制派の町ドゥマで、政府の攻撃と報じられる空爆を受け負傷した。

現代社会の問題の部



〈単写真 1 位〉

② ジョナサン・バックマン（アメリカ、ロイター）

2016 年 7 月 9 日（レイジアナ州バトンルージュ、アメリカ）

たった 1 人で抗議の態度を示すイエシア・エバンスは、武装警官によって捕らえられる際、手を差し出しながらも背筋を伸ばした姿勢を変えることはなかった。2016 年 7 月 9 日、米国レイジアナ州バトンルー

ジュ警察の屋外でおきた警察の残虐行為に対する抗議デモ的一幕。エバンスは、ペンシルバニア州の 28 歳の看護師で 1 人の子をもつ母親でもあるが、アルトン・スターリングの射殺に抗議するため、バトンルージュにやってきた。

37 歳の黒人男性で 5 人の子どもの父親だったスターリングは、2 人の白人警官に至近距離で撃たれた。前年から黒人男性に対する警察官の過剰な権力行使に対し、全米中で憤りが拡大していた最中に起こった事件で、多くの人が携帯電話の動画でこの射殺事件を捉えていた。

日常生活の部



〈組写真 1 位〉

③ トマス・ムニタ

(チリ、ニューヨークタイムズに提供)

2016 年 12 月 1 日 (サンタクララ、キューバ)

キューバのサンタクララでのフィデル・カストロの葬列。

キューバは、フィデル・カストロの逝去後 9 日のあいだ喪に服し、葬儀を行うと発表した。

1959 年に彼が先導した革命の行進があったが、12 月のフィデル・カストロの死後、そのルートを逆にたどる形で遺灰が各地をめぐる。多くの人々が遺灰をひと目見ようとし、街道沿いの町や村からは人の気配がなくなった。人々は彼の死を自らの父の死のように感じていたのだ。カストロは生前と同様、その死においても尊敬の念を求めている。キューバは消えゆく尊厳のさなかではあるが、生の力にあふれていった。国の端から端まで、何千人ものキューバ人が、フィデルに別れを告げようと待っていた。

一般ニュースの部



〈単写真 2 位〉

④ サンティ・パラシオス (スペイン、AP 通信)

2016 年 7 月 28 日

2016 年 7 月 28 日、「リビアで母親が死んだ。」と語った 11 歳のナイジェリアの少女 (左) は、NGO の救命ボートに乗りこみ、10 歳の弟の隣で泣いていた。彼らは、リビアのサブラタの北へ約 23 キロ沖の地中海上で救助されるまで、他の難民と共に、何時間も混み

あうゴムボートに揺られていた。リビアの密輸業者はしばしば難民を利用し、イタリアに向かっている、と言い 750 ドルから 3500 ドルの値をつけ危険なボートに乗せて運ぶ。

長期取材の部



〈1位〉

⑤ バレリー・メルニコフ（ロシア、ロシア・セ
ボードニャ（ロシアの今日）に提供）

2014年7月2日（ルガンスク州、ウクライナ）

2014年以降、東ウクライナのドンバス地域では、自称共和党員とウクライナ当局との衝突で一般市民が犠牲となり、予期せぬ不幸が彼らに降りかかった。意図に反して、彼らは軍事衝突に巻き込まれ、友人や親戚の死、家の破壊、多数の人生の破綻といった悲惨な体験をすることとなった。

自然の部



〈単写真1位〉

⑥ フランシス・ペレス（スペイン）

2016年6月8日（スペイン領カナリア諸島）

2016年6月8日、スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島沿岸で、漁網に絡まり泳げずにいるウミガメ。アカウミガメは、国際自然保護連合（IUCN）により絶滅危惧 II 類とされている。放置された漁具がウミガメの死を頻発させている。

人々の部



〈単写真1位〉

⑦ マグナス・ウェンマン

（スウェーデン、アフトラブラデッド紙）

2016年9月18日（デバガ、イラク）

5歳のマハとその家族は、7日前、イラクのモスル郊外の村ハウィジャから逃れてきた。ISの恐怖と食糧難によってやむなく郷里を去らなければならなかったのだと母親は言う。今、マハは、人であふれかえるデバガ避難民キャンプの中継所の汚れたマットレスに横になっている。マハは、「私には夢がない。もう何も怖いものはない。」と静かに言い、母親は手で彼女の頭をなでる。2年間にわたるイスラム国（IS）支配の後、2016年10月にイラク人とクルド人による部隊は、イラク第二の都市であり国内最後のIS拠点であるモスル奪還のために作戦を開始した。

スポーツの部



〈単写真3位〉

⑧カイ・オリバー・プファッフェンバッハ

(ドイツ、ロイター)

2016年8月14日 (リオデジャネイロ、ブラジル)

2016年のリオデジャネイロ・オリンピックの100メートル走準決勝、ジャマイカのウサイン・ボルトはライバルをふりかえって笑顔を見せている。

ボルトは人類史上最速と言われており、完全自動計測が義務化されて以来初の100メートル、200メートル世界記録保持者である。

■ ■ 国際性豊かな審査員団

「世界報道写真コンテスト」は、フォトジャーナリズム専門家で構成される審査員団が審査に当たります。審査員団の顔ぶれは毎年変わり、審査委員長を中心に、審査手続きを行う事務局長が補佐します。審査員団は世界報道写真財団から独立した立場にあり、入賞作品の選定に審査員団以外が関与することはありません。

＜「第 60 回 世界報道写真コンテスト」国際審査員＞

委員長

・ステュアート・フランクリン（イギリス）マグナム・フォトス、フォトグラファー

メアリー・F・カルバート（アメリカ）フリーランス・フォトジャーナリスト

ルチアーノ・カンディサニ（ブラジル）自然フォトジャーナリスト

クラウド・カレラス・ギーエン（スペイン）フリーランス・キュレーター、エディター、写真リサーチャー

ヘレン・ギルクス（イギリス）ネイチャー・ピクチャー・ライブラリー社長

後藤由美（日本）フリーランス写真キュレーター

ケリー・リード・グラント（アメリカ）ヤフーニュース 写真ディレクター

マルコ・グロブ（スイス）フォトグラファー

タニヤ・ハビョウカ（ヨルダン）ヌール フォトグラファー、ラウィヤ設立メンバー

エマン・モハメッド*（パレスチナ）フォトグラファー、マルチメディア・フォトジャーナリスト

アイダ・ムルネ（カナダ、エチオピア）アディス・フォト・フェスト創業者・ディレクター

アンドレイ・ポリカノフ（ロシア）

タキエ・デラ（オンラインメディア）ビジュアルディレクター

キラ・ポラック（アメリカ）タイム 写真・ビジュアル事業ディレクター

アダム・プリティ（オーストラリア）ゲッティ・イメージズ フォトグラファー

ピム・ラス（オランダ）AD スポルトウエレルド フォトグラファー

ジョアン・シルバ（ポルトガル、南アフリカ）ニューヨーク・タイムズ スタッフ・フォトグラファー

ウィム・バン・シンデレン（オランダ）ハーグ写真美術館 シニア・キュレーター

ゴラン・トマセビク（セルビア）ロイター東アフリカ チーフ・フォトグラファー

スーザン・ホワイト（アメリカ）バニティ・フェア 写真ディレクター

クリスチャン・ツィーグラ（ドイツ）フォトグラファー

デイビッド・グリフィン **事務局長**（アメリカ）D グリフィンスタジオ オーナー

マリア・マン **事務局長**（アメリカ）EPA 国際関係コンサルタント

* エマン・モハメッドは、アメリカ政府が 2017 年 1 月 27 日付けで一部の国を対象に個人の権利を制限する大統領令を出したことに伴って法的助言を受けた結果、アメリカからアムステルダムへの渡航が不可能となりました。

エマンが担当することになっていた審査員の代役は、タニヤ・ハビョウカが担いました。

開催概要

展覧会名 世界報道写真展 2017

会期 2017年6月10日（土）～8月6日（日）

休館日 月曜日（7月17日開館、翌18日休館）

会場 東京都写真美術館 地下1階展示室

TEL: 03-3280-0099

〒153-0062

東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

<http://www.topmuseum.jp>

開館時間 10:00～18:00

（木・金は20:00まで、但し7月20・21・27・28日、8月3・4日は21:00まで）

※入館は閉館の30分前まで

観覧料（税込）

	当日	前売り／団体20人以上
一般	800 円	640 円
学生	600 円	480 円
中学・高校生	400 円	320 円
65 歳以上	400 円	320 円

※小学生以下無料

※チケットは東京都写真美術館およびセブン-イレブン（店内マルチコピー機「セブンチケット」ボタン）でお買い求めいただけます。前売券はセブン-イレブンで販売します（6月9日まで）。

一般お問い合わせ 03-3280-0099 **展覧会ホームページ** <http://www.asahi.com/event/wpph/>

巡回先を含めた開催概要

主催 世界報道写真財団 / 朝日新聞社 / 阪神電気鉄道(大阪) /

立命館大学国際平和ミュージアム（京都、滋賀） /

立命館アジア太平洋大学(大分)

共催 東京都写真美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）（東京） /

イオンモール株式会社（埼玉越谷、広島府中）

後援 オランダ王国大使館 / 公益社団法人 日本写真協会 / 公益社団法人 日本写真家協会 /

全日本写真連盟

協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

巡回予定 2017年6月10日（土）～8月6日（日） 東京都写真美術館（東京）

2017年8月8日（火）～8月17日（木） ハービス HALL （大阪）

2017年8月20日（日）～9月3日（日） イオンモール広島府中（広島）

2017年9月6日（水）～9月18日（月・祝） イオンレイクタウン kaze（埼玉）

2017年9月21日（木）～10月1日（日） 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス（滋賀）

2017年10月3日（火）～10月27日（金） 立命館大学 国際平和ミュージアム（京都）

2017年10月30日（月）～11月12日（日） 立命館アジア太平洋大学（大分）